

第2期青葉区地域福祉保健計画 意見一覧

	項目	意見	意見への対応
1	計画の考え方について	もっと素敵に青葉区ライフのサブタイトルはいい。継続して使っていくといい。	継続して使っていきます。
2	計画の推進体制について	計画の理念については、その通りだと思います。しかし、この理念を実現させていくためには、「区民・事業者・行政」が集う機会をもっと頻繁に設ける必要があると思います。私は、恩田地区の懇談会に出席させていただきましたが、区民・事業者・行政がお互いに遠慮しているような様子が見受けられ、まだ、具体的な活動として展開させていく雰囲気ではないと感じました。	計画推進に活かしていきます。
3		立派でわかりやすい課題8つが見えてきたと思います。が、「誰が」「どこが」という、主体となる人が見えてきません。「誰もが」とおっしゃりたいのかも知れませんが、それでは先が見えません。形だけの会議に終わらないよう、役所の方々に期待します。	
4		地域、行政、各団体がこれから先も色々な活動や行事などに、うまくかみ合っていける努力をしていければ良いと思います。	
5		何度も話し合いをしながら、まとまりつつある計画案。ひとつでも実行に移行していければ良いなあと思っています。更なる話し合いに期待しています。	
6		計画エリアとして連合自治会エリア単位にされた事は毎年自治会の役員が変わってしまうような私達の自治会でも情報が伝わりやすいと思うので良かったと思います。	
7		私が子どもの頃育った田舎の村は、隣組(7戸程度)が自然に助け合っていた。お風呂も、もらい風呂で廻り歩いていた。同じような近隣関係を青葉区で取り戻せないか。その為にはやはり自治会が主体になることが良さそうです。自治会に参加できる(参加する)仕組みを更に進めましょう。	
8		全体的に良い計画がされているのですから、これが一部の団体・個人ではなく、区民全員が参加できる体制を是非つくって欲しい。	
9		行動目標が表面的で、行動計画(誰がWho、いつWhen、どこでWhere、何をWhat、どのようにしてHow 4W-1H)が見えてこない。行動は地区により異なるのが地区の行動計画でも4W-1Hが欠けている。	
10	大変良くまとめられていて良いと思います、イラストや課題別取組もわかり易い。	区計画(全域計画)の各課題は、課題ごとに独立した1ページとし、より見やすく分かりやすくしました。	
11	全体に大変良くまとまっていると思います。写真もとり入れ構成も良く分かりやすい。どこの地域も事業が多く青葉区は元気な住民が多く向上心が強いことが伺えます。立派な計画ができてても計画を実行していかないと意味がないと思います。是非実現実行することに力をそそいで下さる様お願いします。	計画推進に活かしていきます。	

	項目	意見	意見への対応
12	区計画(全域計画)全般について	自分が見落としているのかもしれないが、第1期の計画実施により、どのレベルから、現在、どのレベルになったのか、それを受けて、第2期で6年後の姿としたほうが、6年後を具体的にイメージしやすいかと感じました。	第1期地域福祉保健計画の振り返りは、別に実施し、本計画の策定に反映させました。
13		計画は立案も大切であるが、現状把握をし、問題点を解決・改善することのほうが現実的で住民が望んでいることと思う。地道な対処の積み重ねなくして、理想的な計画をしたところで、無理があり、福祉は進んでいかない。	計画推進に活かしていきます。
14		計画としては、このようなことになるのだと思いますが、やはり抽象的なスローガンが並ぶことになりそうです。ここに具体性を求めても仕方がないのかも知れませんが、したがって区計画に関しては特に言うことはないと思います。ただ、地区で行われている福祉保健活動は、ここに上げられているだけでなく、もっといろいろなことが自主的に行われていると思います。	
15		目標は良くできていると思いますので、全区民が参加、協力できれば良いと思います。	
16		全体的にできればとても良い町になるような計画だと思います。まずは私たちができるところから取り組んでいきたいと思っています。	
17	総括的な計画になっているが、地区により、項目に強弱をつけた。	区計画(全域計画)では、青葉区共通の課題を挙げました。地区別計画では、地区ごとの課題を挙げていますのでご参照ください。	
18	区計画(全域計画)の考え方について	第2期の地区別、第1期計画との比較上の第2期のポイントの記載を希望する。	第1期計画と第2期計画の変更点は、第3章第4節にまとめてあります。
19		8つの課題や行動目標、取組みなどよく計画されていると思いますが、縦割りで動くことが多く、集中した取組みができないことがあると思います。もう少し絞って計画を立てた方が、「取組主体」が丸となって行動できるのではないかと思います。	取組主体が連携を図って行動できるよう、計画を推進していきます。
20	地域福祉保健の担い手としての団体及び人材の育成	地域で活動する団体の中心となる人、担い手がない。賃貸マンションに住んでいます子どもも働いているため地域とのかかわりがほとんどない。隣に住んでいる人がどんな人なのか分からず不安に感じることがあります。	区計画(全域計画)では、「地域福祉保健の担い手としての団体及び人材の育成」を課題として挙げています。今後、計画の中で課題解決に取り組んでいきます。
21		誰でも気軽にボランティア活動ができるよう(当地区ではケアプラがないので)社協が区や区社協と協働して人材を育成していきたい。又、民生委員としては高齢者が増える中で情報が充分いきわたるよういろいろな方法で提供をしたい。	区民の皆様と一緒に、計画を進めていきます。
22		地区別計画の推進組織については、これからの課題であると思います。地区連合自治会や地区社協の実情は人材不足です。行政は具体的にどのような支援をしてくれるのか？	人材不足の改善に向けて、区としても広報啓発に努めるなど、区民の皆様と一緒に、計画を進めていきます。

	項目	意見	意見への対応
23	地域福祉保健の担い手としての団体及び人材の育成	活動している福祉関係団体は多いが、活動内容や頻度がどの程度かで支援につながっているかを調べる必要があると思う。	計画推進に活かしていきます。
24		送迎サービス事業は、現在の区社協のサービスだけでは十分ではないように感じます。保険の問題等クリアできるような方法を、区と活動可能な団体等とで検討し、対応できる団体等を増やしてもよいのではないかと思います。	区計画(全域計画)において、地域の担い手育成を進める中で参考にさせていただきます。
25		ケアプラザ、地区センターでの活動は活発であると思います。ただ気になることがあります。公会堂などで色々な講演会はとっても勉強になり、多くの人に参加してもらいたいと思いますが、車で一緒に参加するには限界があり、一人で参加したいと思う方々も多く思われますが、奈良北団地から市ヶ尾行のバスの便が大変悪く、大変不自由に感じてます。東急などに掛け合って便数を多くして欲しいと切に思っています。会議に参加するのも1時間に1本では、特に12時代、16時以降は無いという事は大問題であろうと思っています。私達もこれから老いて車の運転ができなくなります。若い人は働いており、活動者がどうしても増えません。若い人の意識を何とかしてほしい！！私達では限界があります！！なり手がいません。努力もしています！！	交通の便については、所管局の事業(横浜市地域交通サポート事業)等を、必要に応じて情報提供させていただきます。また、区計画(全域計画)の中で、地域の担い手育成については検討していきます。
26		日本はまだまだボランティア後進国だと思います。啓蒙活動ももちろん大事ですが、ボランティアリーダーの育成、開拓が急務ではないでしょうか。行政だけでなく、企業等でのボランティア活動の啓蒙、理解が広まり、若い人達の参加を希望したいですね。	
27	区計画は、きめ細かな資料と分析がなされていて、大変良かったと思います。誰もが担い手になれるためにはどのようなことをしていく必要があるのか、もう少し具体的であったらいいなと思いました。福祉に関係している団体等はたくさんあるのに、参加の仕方が分からないのが27.5%は、もったいないと思いました。住んでいる地域によって福祉の恩恵が偏らないようにしていかなければと思いました。	計画推進に活かしていきます。	
28	住んでいる地域で日々安心して暮らしていくためには、そこに住んでいる人たちの助け合い、見守りが大事だと思います。自治会、老人クラブ等、活動を活発にしていき、幅広く、いろんな方々に声をかけられるようにしていきたいと思っています。		
29	情報の有効活用	第2期計画案の中で、地区との関わりが明文化されたことは、より具体的な現実味を感じるものであります。8項目の課題の中では特にNo.2「情報の有効活用」に興味を持ちます。何事も情報の共有が出発点であり、「行動目標」の実行に向けてのポイントと思われれます。IT関連(インターネット、HP etc)のみならず、自治会掲示板、公共施設、医療施設、店舗などへの提供拡大とマップ作りなど、発信側としての提供方法を考えてみたいと思います。	
30		区役所、ケアプラザへ出向かなければ情報がもらえないのはいかがでしょうか？	区版広報やホームページなど、区役所等へ出向かなくても情報が得られることが分かりやすいよう、表現を修正します。
31		各関係機関との連携、情報提供、共有が大切だと思う。協力して活動を広げられていけるとよいですね。ホームページを利用しない方、できない方も多いと思います。最近は何でもホームページと記されていますが、配慮が必要ではと思います。	計画推進に活かしていきます。

	項目	意見	意見への対応
32	情報の有効活用	2.情報の有効活用の行動目標について、現在は高齢者の方の中にもパソコン等を使い情報を集めています。今後益々利用が拡大すると思われます。個人のメールアドレス等への直接情報発信も必要かと思われます。	計画推進に活かしていきます。
33		区民の地域活動の場としては、寺や神社など、民間の施設も入れてもいいのではないかと。	
34		美しが丘西に漸く小学校が出来ることになったが、まだ多くの小学校(山内、元石川他)にプレハブ校舎があり運動場が狭く不自由している。あざみ野小学校予定地など区画整理の時に安い地価で提供し確保されなが活用をされない。6年後にはプレハブ校舎をなくすよう建設してもらいたい。	計画推進に活かしていきます。 なお、プレハブ校舎をなくすことについては関係局に申し伝えていきます。
35		私の住んでいる地域には活動の拠点となる施設がありません。現在、自治会の集まりも青葉台コミュニティーハウスが年2回優先的に利用できる位で、当番会などは天候の良い時は公園で、雨の時はコーヒーショップの一角や個人宅で行っています。1日も早く新しい施設ができることを願っています。ヘルスメイトとしても同じ思いです(調理のできる部屋)。	計画推進に活かしていきます。 なお、青葉台では現在、地域の方の活動拠点となる、調理室も含む施設を建設中です。
36	福祉保健活動の場や 機会の充実	「町別年少人口比率」「町別人口増加率」と地区センター、コミュニティーハウス、地域ケアプラザ等公的施設の設置状況を照らし合わせて見た場合、明らかに矛盾した地域がいくつか目に留まります。新住民が期待を膨らませて転居した地域にこうした受け皿が不足しているのは、今期の目標は程遠いものではないでしょうか。「誰もが担い手であり、受け手である地域社会をつくる」が言葉通りなる様、設置実現のスピード化を切に願うところです。	計画推進に活かしていきます。 コミュニティーハウス及び地域ケアプラザは、中学校区に1か所程度の整備を予定しています。厳しい財政状況ですが、未整備地区については整備に向け努力します。
37		ケアプラザが地域のコミュニティーとして立ち寄り場となるようにしたい。	計画推進に活かしていきます。
38		近いところの自治会館を利用した活動や、暖かい気候になりましたら、空き地を利用して老若男女のゲーム等も良いと思います。	
39		子どもや高齢者がいつでも自由に歩いて集えるように、小学校区にひとつ以上の集会所を作ってひきこもりの人をなくすようにしたら良いと思います。地域の人を対象とした健康教室や部屋の中で出来る体操教室については、無料で開催できれば活動も行いやすく活発になると思います。	
40		地域ケアプラザについて、地域の方に広く知ってもらえるよう事業を通して地域住民に参加の働きかけをケアプラザとして行っています。また、今後も行っています。ボランティア団体同士の交流や情報交換が図れるよう、交流会等を行っていきます。地域の方と積極的にコミュニケーションをとり、地域のニーズの把握にケアプラザとして努めます。	
41	活動のネットワークの 強化	余り行政に頼らず市民の力で活動したい。 高齢者については故郷を意識したグループづくりをして、この人達が郷土料理をつくり、皆さんと会食をする、自分達が主役となる一日をつくる、老人に尊厳を持って接したい。 子供達には、行事の主役をさせる、大人が何時も計画をたてない。たとえば公園に子供用の花壇でも、野菜づくりでも、育てる楽しさを、理科としてもやらせて、観察記録、感想文、写真と実行をさせたい。	行政の支援が必要な場合にはご相談ください。
42		高校や大学との連携の記載がないが、入れてもいいのではないかと。	冊子のコラム欄②に記載します。

	項目	意見	意見への対応
43	活動のネットワークの強化	地域福祉保健のネットワーク意見交換は必要だと思います。個々での活動には限界があり、我が地区は団地という特殊な状況の中にあり、居住者の高齢者と顔がまったく見えないし、近所付き合いを大事にする人は多いが、独居を楽しみ、人との関わりをイヤがる人がいるのも事実です。健康であれば幸いですが、歩くのも困難な人に対してはどうか対処してよいのか思案中です。	
44		子育て支援や高齢者、障害者にやさしい町づくりが大切と考えています。いずれの場合も催しに参加したり相談に来たりする人はよいのですが表に出ない、見えない人を如何に救い出すか考えていけたらと思われれます。	区民の皆様と一緒に、計画を進めていきます。 必要時、所管課にご相談ください。
45	高齢者・障がい者の暮らしの支援	高齢化にともない隣近所の助け合いが必要と考えていますがあまり関わりを持ちたくないと思える方もあり、どこまで踏み込んで付き合いえばよいのかむずかしい所があります。	
46		地域で身寄りのない一人暮らしのお年寄りの方が、元気で過ごしていればよいが、身体が弱く入退院して生活を送っていると、隣に住む家の人や行政の人たちが見ているといってもどうなるか心配している。	
47		生涯現役・・・子育て、高齢者の取組には豊かなプラン策定がなされている様に思われますが、団塊世代を中心として熟年世代へのプログラムも有っても良い様に思われます。高齢者を支える次世代、又高齢者予備軍である彼らへの方向付けは未来へ向けての重要な施策となるのではないのでしょうか。中高年齢者の経験や知識を生かし、健康で且つ社会を支える側として活躍できる環境づくりは未来への投資と思えます。	
48	健康長寿のまちづくりの推進	<p>7「健康長寿のまちづくりの推進」について 区民の一人として、この課題の推進に賛同します。そして、何らかの形で、この目標の実現に向けて、活動したいと思えます。 以下。私の意見、提案、希望などです。</p> <p>○まず、大事なキャッチフレーズは、「めざそう健康寿命日本一」を提案する。 ○健康長寿を推進するためには ①体の健康維持増進と②脳(頭)の健康維持増進がかかせない。具体的には ①寝たきりにならない ②認知症にならない、ことである。①については区民の間に広く普及し、健康体操や食生活改善に取り組む多数の活動団体が積極的に推進して効果をあげている。他方②については①と比較すると、ほとんど活動していないのが現状である。そして残念なことに、今回の「健康長寿のまちづくりの推進」計画案にも②の活動に関する内容がなく、活動指針や活動目標も示されていない。 ○そこで、「健康寿命日本一」を実現するためのもう一つの柱である ②脳(頭)の健康維持増進をもっと積極的に、具体的にわかりやすく計画案に記述して欲しい。 ○そのためには、啓蒙、活動、実行を指導する行政の担当部門の方々に、②脳(頭)の健康維持増進が認知症、特にアルツハイマー形の認知症予防にかかせないことを、強く理解していただき、区民に広く普及・啓蒙していただきたいと希望する。 ○そのうえで、②脳(頭)の健康維持増進を推進できる人材の育成およびグループの設立がし易い環境作りをして、バックアップする体制を行政の担当部門に設けて欲しい。 ○東京都の世田谷区が積極的に取り組んでいるので参考にして欲しい。</p>	認知症予防については、「健康長寿のまちづくりの推進」の中に記載しました。

	項目	意見	意見への対応
		<p>以下、記述の一例を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民・団体・事業者 ●脳の健康維持がアルツハイマー予防に不可欠なことを伝え、賛同者を集め、団体を作って活動を進める。 ・区役所 ●脳の健康維持の重要性を広く普及啓発し、この取り組みを推進できる人材の育成およびグループの設立が容易な環境作りをしてバックアップする。 ・区社協 ●脳の健康維持のための具体的な活動を取り入れて、自治会・町内会で実施する。 ・地域ケアプラザ ●脳の健康維持に関する講習会を定期的に行い、普及啓蒙をするとともに、活動を推進するグループの設立を促進して、共同でその活動に取り組む 	
49	健康長寿のまちづくりの推進	食生活等改善推進委員会の地域普及活動をするにあたり、地区センターや自治会館が無料で使用できれば、より地域密着型の健康づくりの教室ができると思います。	自治会館については、各自自治会の判断で、利用料負担を個別に定めています。地区センターについては、横浜市条例に基づいて利用料をいただいておりますので、ご理解ください。
50		気功、ウォーキング、落語会等を実行していますが、一般の方々が参加するための呼びかけがもっと必要だと思います。たとえば、駅、商店の協力をあおいでポスターを貼らせていただくとか。	計画推進に活かしていきます。
51		もっと平均寿命NO. 1を前面に出して、楽しく長生きといったトーンで全体を構成していくといいかと思いました。	青葉区の平均寿命については、区計画(全域計画)の「健康長寿のまちづくりの推進」等で、強調しています。
52		保健活動について、自治会の定例会に出席してお知らせしていますが、一般的に保健活動を知らない人が多く、興味がなさそうです。	区計画(全域計画)の中で、「健康長寿のまちづくりの推進」を挙げています。区としても、保健活動を推進していきます。
53		地区別計画の策定にあたった地区懇談会はどんなメンバーだったのか。示して欲しい。	計画第6章地区別計画に、地区懇談会のメンバーについて加筆しました。
54		折角、地区別計画を作ったのだから、ぜひ、区役所のほうで引っ張ってほしい。	
55		大きい目標も大切だが、地区単位の小さな目標が達成できることが地域の輪を広げる。	
56	地区別計画について	15の連合自治会単位に分割した地区計画は問題点が身近になり、たいへん良い企画だと思います。地区にある高校を活用しましょう。	計画推進に活かしていきます。
57		私の住んでいる地区は大変広域にわたっているので、計画を地区全体で統括し、管理するのは非常に難しいのではないかと感じます。取り組むテーマに従い、プロジェクト・チームを結成するアイデアもあるかなと思います。	
58		地区別計画を作成したことにより、地域住民が主体となり、身近にとらえることができる計画となったと思う。22年度より、実現化に向けて地域のサークル、団体、市民が共に取り組めるよう支援していきたいと考えています。	区民の皆様と一緒に、計画を進めていきます。

	項目	意見	意見への対応
59		荏田西地区における第1期福祉保健計画の実施状況と反省を知りたい。総括が行われたのか？	地区別計画は、第2期青葉区地域福祉保健計画ではじめて策定しました。荏田西地区の個別の状況は、第2期計画からの掲載になりますのでご了承ください。
60		〔地区の概況〕山内はこの方面では歴史的にみて中心であったことをスポーツの記事を少し削除しても記載してはどうか 〔地区で行われている福祉保健活動〕 ＜子育て支援＞地下鉄駅構内にある「赤ちゃん休憩室」は他地区にない活動(民生委員・自治会員)で平日毎日行っている。紹介しては。 ＜高齢者支援＞ 「ボランティア山内」が16年間養老ホームの手伝い、毎月の食事会掃除などを活動している。また「高齢者交通安全講習」を永年続けており、来月交通安全協会から表彰を受けることになった。 ＜その他＞ 毎年夏に行われる「あざみ野まつり」は1万5千人位が集まるイベントで5自治会と商店会の共催で行われる。消防団活動も活発でどこかへ一行記しては。	いただいたご意見は、地区の委員へ伝え、今後の計画推進のなかで活かしていきます。
61	地区別計画について	地区内では、すでにいろいろな活動が行われています。地域ケアプラザや区役所で行われている活動の他に、保育園や小学校を舞台として、様々な活動が行われています。これらの活動を盛んにして、それぞれの活動主体やボランティアを結びつけることが課題だとも言えます。荏田西地区社協では、広報紙を使ってそれらの活動を結びつけたいと考えています。また、独自に高齢者の交流会を企画して、これを実現しようと模索しています。荏田西の場合、このような活動の場としては、ピオラ市が尾ケアプラザが荏田西小学校が主なものになります。ケアプラザは荏田西2～3丁目にとっては遠く、坂もあり、高齢者が気軽に通うことが難しい場所にあります。荏田西小学校は、ほぼ中心部にあり、立地は良いのですが、その分、自治会など多くの団体が使用しており、土日しか利用できないなど、制限も多く、気軽に使える場ではなくなっています。老人会も年に二度ほど使用できるのみです。そんな中で交流会を企画した場合、送迎などいろいろ難しい問題に直面します。やはり、荏田西の中心部にコミュニティーハウスのようなものが欲しい、というのは多くの住民の願いです。これだけの人口、世帯が集中している中に公民館のようなものがないというのは、福祉活動にとって大きな障害になっています。区としても、この地域にコミュニティーハウスが建設されますよう、お力添えくださいますようお願いしたいと思っています。	計画推進に活かしていきます。コミュニティーハウスは、中学校区に1か所程度の整備を予定しています。厳しい財政状況ですが、未整備地区については整備に向け努力します。
62		(参考)P41 主な推進団体等 この枠の中に環境事業推進委員、消費生活推進員、家庭防災員等も入れた方が良いと思います。入れるのが多くなる場合は～等とした方が良いと思います。	いただいたご意見は、地区の委員へ伝え、今後の計画推進のなかで活かしていきます。
63		奈良北地区の懇談会は、地域住民の団結を強固にし、次の活動につなげる良い機会になったと思います。制度や予算等、地域だけでは解決が難しい場面を、どのように行政が支援していけるかで今回の計画が具体化されていくのではないかと考えます。	今後の計画推進に活かしていきます。

	項目	意見	意見への対応
64	問い合わせ先一覧について	障害者相談支援事業所の案内は、なぜどこにも無いのでしょうか。	事業所が数多くあり、紙面に制約があるため、この計画では公共機関などの主な問い合わせ先を掲載しました。なお、障害者相談支援事業所については、別途、本市「障害福祉のあんない」でご案内しています。
65	その他(広報)	たくさん良い企画が立てられていてもPRが地域の皆さんに知られていない面がありますので、もっとPRを工夫されたらよいと思います。	計画推進に活かしていきます。
66		区で考えている方針についてはよく理解でき、とても良い方向に向いていると思う。この内容が区民にどの程度浸透しているかが問題ではないか。区報でも「福祉保健」という言葉をよく目にするが、抽象的でイメージしにくい言葉である。活動に関わっている人たちのみのものにならないよう自治会の細い班・組での周知が必要ではないだろうか。	
67		とても立派な計画(案)ができそうだが、各種役員だけでなく、一人でも多くの区民の方に理解をしていただくようPRも大切だと思う。	
68		地区単位で身近な問題に目をむけるいいチャンスだと思います。区民への意識付けができるようしつこいくらい広報活動してほしい。(目から耳から何かで見た聞いたということが大切)自治会の方々は多少、骨折り作業となるところもありますが、まずはお隣同志の顔が見れる、声をかけられる地域になればと思います。	
69	その他	第1期の区及び地区別の計画に対する実績評価(例えば点数付けのまとめ)を記載してほしい。	第1期地域福祉保健計画の振り返りは、別に実施しました。
70		マンションに住んでいます。住民として、どうしたら計画に参加できるのでしょうか。個人で参加したほうがよいのでしょうか。それとも、マンションの自治会に入って、自治会として参加したほうがよいのでしょうか。マンションの自治会としては防災訓練や夏祭りなども行っています。自治会単位の活動を、区計画や全域計画に結びつけるには、具体的にどう結びつけたらよいのでしょうか。	さまざまな参加の仕方が考えられます。身近な地域で活動している組織団体に相談するのもひとつの手法でしょうし、内容により、区役所、地域ケアプラザ、区社協にも相談できます。
71		各地域の特色が反映された計画になったと思います。	計画推進に活かしていきます。
72		計画通り進めてください。	
73		区民の意見を十分に取入れたというのはいいが、行政が他都市の先進的な取組事例を示して、地域に合わせた地域活動の提案をしてもいいのではないかと。	
74		区役所の各課が横の連携を強めて欲しい。	
75		講座、イベントがいろいろなところで似たようなことをしていてわかりづらい。	
76	計画の途中推移などもわかるようにして欲しい。		
77	地域の住民に広く意見を求めるのであれば、市の職員が積極的に自治会など地域の集まりに出て行って説明を行ったほうがよいと思う。		

	項目	意見	意見への対応
78	その他	少し難しい漢字には、フリガナをふった方がいいと思いました。	「権利擁護」「包括支援センター」など、少し難しい漢字には、フリガナをふりました。
79		ボリュームがあり、本編はなかなか取り付きにくいので、第1期と同様、概要版を作成していただきたい。	概要版を作成します。
80		今、区役所のロビーで「青葉区花と緑のサポーター」の活動写真展を展示しています。 この会員の方々の実行力、誠実さ、前向きな様子に接して、高齢者は社会に甘えているのではなく、自分の力で社会に目を向け、自然と向き合う大切さを知りました。 そんな事から地域福祉の在り方を考えていました折に、此度の案内を拝見し、書いてみました。	ご意見有難うございます。区民の皆様と一緒に、計画を進めていきます。
81		「包括支援センター」という名称が理解しづらいと思う。もっと簡単に誰でも理解できる名称に変更したらどうか？	国で定めた名称となっておりますのでご理解ください。
82		社協、プラザ、委員等の施設、団体名がわかりにくい。何をしているのかもわかりづらいし、活動内容も重複しているのか？	一般の方に馴染みのない団体名等は、なるべくコラム欄で解説するなど工夫しました。
83		計画の内容をもう少し分かりやすく具体的に記載した方がよい(表現が硬く抽象的で分かりづらいと感じる)。	全体を見直し、具体化できるところは具体化しました。
84	自分の住んでいる地域の活動も知らなかったので参考になった。	今後も青葉区地域福祉保健計画をご支援いただければ嬉しく存じます。	